

國學院大學学術情報リポジトリ

スタッフ紹介

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000606

スタッフ紹介

※ 氏名、現職、専門分野、担当研究事業、および2020年度の研究業績について紹介します。今年度新任のスタッフに関しては、研究紹介および2019年度以前の研究についても掲載しています。また、掲載順は担当研究事業を基に、現職・五十音順に従うものとします。なお、発表・講演等をオンライン形式にて行った場合は、そのWeb会議サービスの媒体を問わず「オンライン開催」と表記しています。

平藤喜久子 所長・教授 神話学・宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【単行本】

- ・編著『ファシズムと聖なるもの/古代的なるもの』北海道大学出版会、2020年4月、全290頁。

【論文】

- ・「初期ジャパノロジストと日本書紀の翻訳」山下久夫、斎藤英喜編『日本書紀1300年史を問う』思文閣、2020年6月、339-362頁。

【口頭発表】

- ・（講演）「神話学から読む日本神話：日本書紀1300年を迎えて」『日本書紀』千三百年記念オンライン教養研修会、主催・東京都神社庁（オンライン開催）、2020年8月28日。
- ・（講演）「神と人のつながりから紐解く、大神神社のものがたり」丸キャリTravel～奈良を知る。日本を知る、主催：日本経済新聞社、於日経ホール、2020年9月15日。
- ・（講演）「日本書紀千三百年を迎えて」令和2年度鹿児島県神社関係者大会、主催：鹿児島県神社庁、於鹿児島サンロイヤルホテル、2020年10月27日。
- ・（講演）“The Depiction of Japanese Deities in Modern Japan”, East Asian Studies Program Virtual Coffee-Hour Lecture, Princeton University（オンライン開催）、2021年3月3日。

【その他】

- ・（監修）『銀座の神さま仏さま』資生堂、2020年4月、全40頁。
- ・（エッセイ）「世紀末フランス人がみた『日本書紀』」『鴨東通信』No.111、思文閣、2020年9月。

黒崎浩行 教授 宗教社会学、現代社会と地域神社

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【論文】

- ・「災害後の集落再編過程に見られる祭礼文化の包摂性」『國學院大學紀要』第59巻、2021年2月、15-28頁。

【口頭発表】

- ・「妙好人とローカリティ」日本宗教学会第79回学術大会、於駒澤大学（オンライン開催）、2020年9月19日。

【その他】

- ・（テーマセッション）黒崎浩行・佐藤壮広・君島彩子・司会：西村明「ウィズ・コロナ、ポスト・コロナの信仰のカタチ」国際宗教研究所編『現代宗教2021』2021年3月、33-53頁。
- ・（研究調査報告）「変化する災後の地域において宗教が担う持続性」『國學院大學研究開発推進センター研究紀要』第15号、2021年3月、423-431頁。

藤澤紫 教授 日本美術史・浮世絵・江戸文化論・比較芸術学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【単行本】

- ・(監修)『NHK 浮世絵 EDO-LIFE 浮世絵で読み解く江戸の暮らし』NHKプロモーション協力、NHKエデュケーショナル企画・協力、講談社、2020年12月。
- ・共著『NHK浮世絵EDO-LIFE 東海道五拾三次：描かれた人々の「声」を聴く』(藤澤 紫・NHK「浮世絵EDO-LIFE」制作班著、NHK出版、2021年7月。

【口頭発表】

- ・(WEB講演)「遊べる浮世絵展の遊びかた(1)～(4)」[特別展 くもんの子ども浮世絵コレクション 遊べる浮世絵展] 記念講演会、奈良県立万葉文化館公式YouTube、2020年5月19日～6月21日。
- ・(講演)「江戸へようこそ！—三谷家コレクションに見る浮世絵のある暮らし—」於日比谷図書文化館、2021年7月31日。

【その他】

- ・(展覧会監修)「特別展 くもんの子ども浮世絵コレクション 遊べる浮世絵展」奈良県立万葉文化館練馬区立美術館、会期2020年5月19日～6月21日。
- ・(新聞連載)「もっと！浮世絵と遊ぼう！」時事通信(河北新報、八重山毎日新聞、長野日報、陸奥新報、苫小牧民報などの)朝刊文化欄にて連載、2020年4月～2021年3月。

星野靖二 教授 近代日本宗教史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【単行本】

- ・『만들어진 종교:메이지 초기 일본을 관통한 종교라는 물음』(訳:이예안・이한정) 글항아리、2020年8月(『近代日本の宗教概念——宗教者の言葉と近代』有志舎、2012年2月のコリア語版)。

【論文】

- ・「キリスト教をめぐるポリティクス」島藺進・末本文美士・大谷栄一・西村明編『維新の衝撃・近代日本宗教史・第1巻』春秋社、2020年9月、247-274頁。
- ・「「合理的宗教論」と「実存的宗教論」——井上円了と清沢満之を取り巻く同時代的な文脈」『現代と親鸞』第43号、2020年12月、176-193頁。

【口頭発表】

- ・「シカゴ宗教会議と「日本のキリスト教」をめぐる諸相」科研・三菱財団助成金共催「グローバル禅ワークショップ」、オンライン開催、2020年6月21日。
- ・「明治前期における「世界の諸宗教」像の形成についての一考察」日本宗教学会第79回学術大会、於駒澤大学(オンライン開催)、2020年9月19日。
- ・“The “Reformation” and “New Buddhism” at the Roundtable: “Historiography on (Early) Modern Religions” (Historians’ Workshop), held online via Zoom, 2020.12.10.

【その他】

- ・(書評)「『主は偕にあり 田中遵聖説教集』」『週刊読書人』3340号、2020年5月22日。
- ・(ブックレビュー)「大谷栄一・菊地暁・永岡崇編著『日本宗教史のキーワード——近代主義を超えて』」『宗教と社会』26巻、2020年6月、118頁。
- ・(書評)「岩田真美・中西直樹編著『仏教婦人雑誌の創刊』」『宗教研究』94巻1号、2020年6月、102-108頁。
- ・(コメント)「第1回「キリスト教とナショナリズム」公開研究会」(共催：基盤研究(B)「日本新宗教史像の再構築：アーカイブと研究者ネットワーク整備による基盤形成」、基盤研究(C)「近代日本における「メディア宗教」の研究—大正期求道者たちの言説分析を中心に」、若手研究「明治思想史における「政教分離」—国学・神道とキリスト教による解釈の比較を通して—」)、オンライン開催、2020年8月22日。
- ・(Introduction and translation) “On Religious Revolution (1889)” in Krämer, Hans Martin and Klautau,

Orion eds. *Buddhism and Modernity : Sources from Nineteenth-Century Japan*, University of Hawaii Press, 2021.3., pp. 51-63 (中西牛郎『宗教革命論』第十二章「旧仏教ヲ一変シテ新仏教トナサザル可ラス」の解題と英訳)

遠藤潤 教授 宗教学、日本宗教史（近世・近代）

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の成果公開とデータベース再構築」

【論文】

- ・「近代神道研究をめぐる諸相—柳田国男「神道私見」を視点として」吉田一彦・佐藤文子編『日本宗教史』6、吉川弘文館、2020年10月、64-90頁。
- ・「平田篤胤の言説は社会的境界を越えたのか—藩・幕府・朝廷を焦点に」久保田浩ほか編『越境する宗教史』上、リトン、2020年11月、203-228頁。

【その他】

- ・（コラム）「まちがつながる」『神社新報』神社新報社、2020年5月18日、3面。
- ・（コラム）「遠隔授業と雑談」『神社新報』神社新報社、2020年8月24日、3面。
- ・（コラム）「珈琲豆の教へ」『神社新報』神社新報社、2020年11月16日、3面。
- ・（コラム）「大学図書館のいま」『神社新報』神社新報社、2021年2月22日、3面。

松本久史 教授 近世・近代の国学・神道史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の成果公開とデータベース再構築」

【口頭発表】

- ・（講演）「江戸・東京の学問文化」明神塾 巻之23「江戸・東京の伝統文化と交流 II」、神田神社、2020年12月9日。

【その他】

- ・（コラム）「国学とは何か（一） 国学の発生」『みづがき』宮城県神社庁、2021年1月30日、14-15頁。

エリック・シッケタンツ (SCHICKETANZ, Erik)

助教 近代日本の宗教、近代中国の宗教、宗教と政治

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

吉永博彰 助教 中世・近世の神道史、神社有職故実

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【その他】

- ・（紹介）高埜利彦著『日本史ブックレット86 江戸時代の神社』『國學院雑誌』第121巻4号、2020年4月、60-61頁。
- ・「天神信仰—古代から中世への神観念・信仰の転換—」『古代の祭りとい—疫病・災害・崇り—』國學院大學研究開発推進機構学術資料センター（神道資料館部門）、2021年2月、14頁。
- ・（紹介）神崎宣武著『旅する神々』『神社新報』3534号、神社新報社、2021年3月29日、6面。

武田幸也 助教 近代神道史・国学

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の成果公開とデータベース再構築」

【論文】

- ・「明治国学と『日本書紀』研究」『神道宗教』259、2020年10月、121-154頁。

丹羽宣子 客員研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【口頭発表】

- ・「戦後の日蓮宗における女性教師の養成制度」日本宗教学会第79回学術大会、於駒澤大学（オンライン開催）、2020年9月19日。
- ・「『法華経の世界』を生きる—仏教教理と生活世界の交錯する場に注目して—」真宗総合研究所東京分室 公開シンポジウム「日本仏教を生きる女性たち」、於真宗総合研究所東京分室（オンライン開催）、2020年10月25日。

【その他】

- ・（書評とリプライ）寺田喜朗「丹羽宣子著『〈僧侶らしさ〉と〈女性らしさ〉の宗教社会学—日蓮宗女性僧侶の事例から—』『宗教と社会』第26号、2020年6月、75-77頁。
- ・（ブックレビュー）「那須英勝、本多彩、碧海寿広編『現代日本の仏教と女性—文化の越境とジェンダー—』『宗教と社会』第26号、2020年6月、122頁。
- ・（論・寄稿）「現代日本社会と女性教師」『中外日報』、2021年2月12日。

高田彩 PD研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【口頭発表】

- ・「武州御嶽山の宿坊運営を支えるつながり—御師の子供に注目して—」日本宗教学会第79回学術大会、於駒澤大学（オンライン開催）、2020年9月20日。

藤井修平 PD研究員 宗教学理論研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【研究紹介】

近年の自然科学系諸分野の発展を踏まえ、より幅広い視点を取り入れた新たな宗教研究の形を確立するために、宗教研究の方法論、とりわけ進化生物学、認知科学、心理学の手法を取り入れた宗教理論について研究し、その応用可能性について検討している。2020年度に提出した博士論文「生物学・認知科学に基づいた宗教理論および宗教思想の研究」においても、これらの宗教理論の成立した歴史的背景や批判、それを取り巻く社会との関係を詳細に取り扱った。今後の研究においては、進化生物学、認知科学、心理学等と連携したアプローチを構築することで、宗教に関する新たなデータを提供することを模索している。

【論文】

- ・「仏教は西洋でいかに変化したか—ヨーロッパの禅を中心に—」『中央学術研究所紀要』第48号、2019年11月、67-88頁。
- ・「瞑想の科学の過去と現在—1960年代の禅心理学の現代への意義—」『中央学術研究所紀要』第49号、2020年11月、147-170頁。
- ・「What the Emergence of CSR Brought About?」『Method & Theory in the Study of Religion』第33巻1号、2021年1月、21-42頁。

【口頭発表】

- ・（公募シンポジウム）「宗教学的観点からみる妖怪」日本心理学会第83回学術大会、於立命館大学、2019年9月11日。
- ・（個人発表）「エリアーデ批判以後の日米宗教学の道程と課題」日本宗教学会第78回学術大会、於帝京科学大学、2019年9月14日。
- ・（個人発表）「現代宗教学の方法論的議論—認知科学的宗教理論への批判から—」日本宗教学会第79回学術大会、於駒澤大学（オンライン開催）、2020年9月19日。

- ・(公募シンポジウム)「心理学と宗教の関係——マインドフルネスの事例から」日本心理学会第84回学術大会、於東洋大学(オンライン開催)、2020年10月。
- ・(ポスター発表)高橋綾子、藤井修平「現代における妖怪のイメージとその社会的機能の検討ー新型コロナウイルス禍におけるアマビエと祈りー」日本心理学会第84回学術大会、於東洋大学(オンライン開催)、2020年10月。

宮澤安紀 PD研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【論文】

- ・「日英の自然葬法に関する宗教社会学的比較研究」(2020年度筑波大学提出博士論文)、2021年3月。

【口頭発表】

- ・「日英葬送比較文化の試みー直葬と火葬の歴史から」日本宗教学会第79回学術大会(パネル「現代日本の葬送文化再考:異文化の視点から考える」)、オンライン開催、2020年9月20日。
- ・「現代社会における葬送文化の再考ー日英における自然志向型の葬送から」「高齢多死社会日本におけるウェルビーイングとウェルディングの臨床社会学的研究」セミナー、オンライン開催、2020年9月23日。
- ・「日英の比較からみる火葬文化の現代的変容」国立歴史民俗博物館共同研究「家内における死者祭祀・祭具の現在とその歴史的検討ー変容するモノ・家族・社会」研究会、オンライン開催、2020年12月19日。
- ・(講演)「現代イギリスの死と葬送:ポストモダンの葬送文化」日本葬送文化学会、オンライン開催、2021年3月18日。

【その他】

- ・(現代宗教動向)「死をめぐる新型コロナウイルス感染症の影響ー葬送文化と死別・グリーフサポートの観点から」(尾角光美と共著)『現代宗教2021』(公益財団法人国際宗教研究所)、2021年3月、203-234頁。

問芝志保 PD研究員 宗教社会学・日本近現代宗教史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の成果公開とデータベース再構築」

【単行本】

- ・『先祖祭祀と墓制の近代——創られた国民的習俗』春風社、2020年10月。

【論文】

- ・「二〇一〇年代のスピリチュアル市場における先祖供養と墓参り」山中弘編『現代宗教とスピリチュアル・マーケット』弘文堂、2020年8月、87-106頁。
- ・「第8章 日本では終活が盛んときいたが」、「第9章 日本の墓とはどんなものか」岩田文昭・碧海寿広編『知っておきたい 日本の宗教』ミネルヴァ書房、2020年10月、66-73頁、74-81頁。

【その他】

- ・(コラム)「日本の墓制と法規制」高尾賢一郎・後藤絵美・小柳敦史編『宗教と風紀——〈聖なる規範〉から読み解く現代』岩波書店、2021年1月、127-128頁。
- ・(書評)「書評 小山聡子著『もののけの日本史——死霊、幽霊、妖怪の一〇〇〇年』」『週刊読書人』2021年1月22日号。
- ・(コラム・月刊誌連載)「墓地ぼち閑話」『地域寺院』第56~58号、2021年1~3月、13頁。

古畑侑亮 PD研究員 日本近世史・思想史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の成果公開とデータベース再構築」

【論文】

- ・「日本の19世紀における「好古家」の蒐集活動と歴史意識ー武蔵国の在村医小室元長を中心にー」一橋大学大学院社会学研究科博士論文、全7章、2020年11月、1-188頁。

- ・「戦前における在野研究者の蒐集活動と史料認識—金沢甚衛の河川交通史研究—」『大倉山論集』第67輯、2021年3月、285-316頁。

〔口頭発表〕

- ・「随筆を抜書するということ—幕末・明治における「好古家」の編纂物作成の周辺—」「近代日本の日記文化と自己表象」第25回研究会、オンライン開催、2020年8月22日。

大場 あや 研究補助員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

〔論文〕

- ・「新潟県における新生活運動の展開—冠婚葬祭の簡素化の実践に着目して—」『一般社団法人冠婚葬祭文化振興財団冠婚葬祭総合研究所論文集』令和元年度、2020年5月、46-52頁。

〔口頭発表〕

- ・“The New Life Movement in Post-war Japan: Simplification of Weddings and Funerals”日本宗教学会第79回学術大会、於駒澤大学（オンライン開催）、2020年9月20日。
- ・（講演）「ウルドゥー語とイスラーム—絡み合う言語、宗教、民族、国家—」目黒の会、オンライン開催、2020年10月10日。
- ・「新生活運動における「香典返しの廃止」と互酬性—戦後群馬県における展開—」第93回日本社会学会大会、於松山大学（オンライン開催）、2020年10月31日。

〔その他〕

- ・（ブックレビュー）「森岡清美著『新版 真宗教団と「家」制度』」『宗教と社会』26号、2020年6月、123頁。

木村 悠之介 研究補助員 近代日本宗教史・神道史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の成果公開とデータベース再構築」

〔論文〕

- ・「近代神道における「学」的実践の位置—國學院大學を中心とする神道青年運動の展開過程を例に—」『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』第13号、2020年9月、31-54頁。
- ・「明治中後期の神道青年運動における科学と宗教—初期の神風会に至る宇宙論の位置づけから見た近代神道学前史—」『國學院大學研究開発推進機構紀要』第13号、2021年3月、45-95頁。

〔口頭発表〕

- ・「『神道哲学』の誕生—近代神道学形成の一過程として」日本学研究会第1回研究会、於東北大学（オンライン開催）、2020年5月31日。
- ・「神道改革者・磯部武者五郎におけるキリスト教理解」「キリスト教とナショナリズム」研究会第1回公開研究会、オンライン開催、2020年8月22日。
- ・「知識人宗教としての近代神道学形成前史—神道青年運動を中心に—」日本宗教学会第79回学術大会、於駒澤大学（オンライン開催）、2020年9月19日。
- ・「帝国憲法制定前後における神道宗教論と久米邦武筆禍事件—『明治叢誌』上の「国家神道」論争を中心に—」神道宗教学会第74回学術大会、於國學院大學（オンライン開催）、2020年12月5日。
- ・「折口信夫の神道論における普遍と特殊—大正15年の折口自身による「国家神道」用例を起点に—」令和2年度第3回国学研究会、於國學院大學（オンライン開催）、2021年2月18日。
- ・「The KUME Kunitake Incident and Shinto Religion Theories: Focusing on The Reception of Religious Studies」The 7th International Interdisciplinary Japan Studies Graduate Workshop、於東北大学（オンライン開催）、2021年3月19日。
- ・「久米邦武筆禍事件と神道宗教論—宗教学説の受容を中心に—」明翔会第3回研究報告会、オンライン開催、2021年3月21日。

[その他]

- ・(要旨) 木村悠之介「知識人宗教としての近代神道学形成前史—神道青年運動を中心に—」『宗教研究』第94巻別冊、2021年3月、113-114頁。

井上 順孝 客員教授 宗教社会学、認知宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[単行本]

- ・『グローバル化時代の宗教文化教育』弘文堂、2020年7月。

[論 文]

- ・「コロナ問題と現代宗教」『アジア遊学253 ポストコロナ時代の東アジア』勉誠社、2020年9月、221-231頁。
- ・「遺伝的及び文化的な継承の相互作用による不可視の病原への対処—コロナ問題への認知宗教学的アプローチ—」『ラーク便り—日本と世界の宗教ニュースを読み解く』第87号、宗教情報リサーチセンター、2020年8月、81-98頁。

[その他]

- ・(コラム)「「現在のこと」としてのオウム事件」『中外日報』、2020年11月18日。
- ・(レビュー)「イエス像に上半身をさらしてなす『告解』」(映画『聖なる犯罪者』パンフレット、ハーク、2021年1月15日)。
- ・(ブログ)「宗教文化の網の目(1) 問い続け、考え続けたいこと」『弘文堂スクエア』、2020年7月15日。
- ・(ブログ)「宗教文化の網の目(2) 継承か伝染か」『弘文堂スクエア』、2020年8月12日。
- ・(ブログ)「宗教文化の網の目(3) 教祖の語りと教師の語り」『弘文堂スクエア』、2020年9月16日。
- ・(ブログ)「宗教文化の網の目(4) 気付かぬままに固守するもの」『弘文堂スクエア』、2020年10月14日。
- ・(ブログ)「宗教文化の網の目(5) デジタル化の波の下にあるもの」『弘文堂スクエア』、2020年11月11日。
- ・(ブログ)「宗教文化の網の目(6) フェイクニュースの感染力」『弘文堂スクエア』、2020年12月9日。
- ・(ブログ)「宗教文化の網の目(7) 陰謀論に吸い寄せられる人たち」『弘文堂スクエア』、2021年1月13日。
- ・(ブログ)「宗教文化の網の目(8) 善と悪がねじれるシナリオ」『弘文堂スクエア』、2021年2月10日。
- ・(ブログ)「宗教文化の網の目(9) 形を変える網の目」『弘文堂スクエア』、2021年3月10日。

櫻井 義秀 客員教授 宗教社会学 アジア宗教文化論

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[単行本]

- ・『中国・台湾・香港の現代宗教—政教関係と宗教政策』明石書店、2020年9月。

[その他]

- ・(評論)「現代日本の宗教最前線82 「人生百年を生きるための心の師」『月刊住職』2020年4月号、144-147頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線83 「世界を覆う人生百年の四苦八苦」『月刊住職』2020年5月号、136-139頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線84 「オンラインで人も宗教も大丈夫？」『月刊住職』2020年6月号、152-155頁。
- ・「第十一回宗勢基本調査に向けて(五) 宗教と健康・幸福」『宗報』2020年6月号、浄土真宗本願寺派、18-22頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線85 「優しさより正しさを優先する病」『月刊住職』2020年7月号、144-147頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線86 「非日常を強いられた後の日常とは何か」『月刊住職』2020年8月号、

144-147頁。

- ・(評論)「現代日本の宗教最前線87 「ウィズコロナよりもいのちを生きるため」『月刊住職』2020年9月号、128-131頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線88 「いのちとは何かの答えがウイルスにある」『月刊住職』2020年10月号、126-129頁。
- ・「論 オウム真理教 宗教報道の問題—ジャーナリスト/研究者の自覚と責任」『中外日報』2020年10月14日付
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線89 「つながりで生かされる人間のいのち」『月刊住職』2020年11月号、144-147頁。
- ・「時事評論 試行錯誤のコロナ対応 過ちはためらわず改めよう」『中外日報』2020年11月27日付
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線90 「迷惑をかけないという人生観でいいのか」『月刊住職』2020年12月号、122-125頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線91 「宗教者にも問われる俯瞰的視点とは何か」『月刊住職』2021年1月号、122-125頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線92 「自己正当化に使われるエビデンス問題」『月刊住職』2021年2月号、134-137頁。
- ・「時事評論 希望の語り方」『中外日報』2021年2月12日付
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線93 「分断の超克に必要な言葉は」『月刊住職』2021年3月号、134-137頁。
- ・「節目が実感できない大学新入生の皆さんへ」『しんぶん 赤旗』2021年3月24日付

土屋博 客員教授 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

ナカイ・ケイト (NAKAI, Kate W) 客員教授 日本思想史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

ノルマン・ヘイヴンズ (HAVENS, Norman) 客員教授 日本宗教史、日本の民間信仰

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

山中弘 客員教授 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

林淳 客員教授 日本宗教史

担当研究事業「「國學院大學 国学研究プラットフォーム」の成果公開とデータベース再構築」

天田顕徳 共同研究員 宗教社会学・民俗学・観光学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[単行本]

- ・石黒侑介・木村宏・天田顕徳編『ニセコ町観光の諸相と観光振興ビジョン策定に向けた展望』北海道大学観光学高等研究センター (CATS叢書)、2021年3月。

[論文]

- ・「山岳デスティネーションのブランド化における「範囲」と「主体」」石黒侑介・木村宏・天田顕徳編『ニセコ町観光の諸相と観光振興ビジョン策定に向けた展望』北海道大学観光学高等研究センター (CATS叢書)、2021年3月、67-84頁。

- ・「祭礼の中止、妖怪の流行―「疫病除け」を手掛かりに―」玄武岩・藤野陽平編『ポストコロナ時代の東アジア』勉誠出版、2020年9月、191-202頁。
- ・「「山伏文化」の資源化・商品化―山形県・手向集落を事例に―」山中弘編『現代宗教とスピリチュアル・マーケット』弘文堂、2020年8月、169-188頁。

[口頭発表]

- ・「山形県鶴岡市羽黒町手向地区 山伏宿坊街の現状と課題」コロナ時代における新しい「つながり」の研究―公共性をキーワードに―研究会、オンライン開催、2021年1月19日。
- ・「山岳ディステーションのブランド化と文化資源」北海道大学観光学高等研究センター×ニセコ町共同研究第2回研究会、オンライン開催、2020年11月11日。
- ・「コロナと修行」日本民俗学会第72回年会、オンライン開催、2020年10月4日。
- ・「祭礼の中止、妖怪の流行―「疫病除け」を手掛かりに―」北海道大学東アジアメディア研究センター主催ウェビナー ポストコロナ時代の東アジア② コロナ時代にみる東アジアの信仰の姿、オンライン開催、2020年6月22日。

[その他]

- ・(書評)「井上順孝『グローバル化時代の宗教文化教育』」『神社新報』神社新報社、2020年10月12日付

今井信治 共同研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[論 文]

- ・「アニメ「聖地巡礼」の生成と展開―『らき☆すた』と『君の名は。』をメルクマールに―」山中弘編『現代宗教とスピリチュアル・マーケット』弘文堂、2020年8月、209-228頁。

[その他]

- ・(論・寄稿)「祭りの変化と宗教の真価」『新宗教新聞』、2021年1月1日、3面。
- ・(論・寄稿)「祭りの変化と宗教の真価」『新宗教新聞』、2021年2月26日、4面。

小高絢子 共同研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[論 文]

- ・「行政における仏教の文化資源化―柴又帝釈天の庚申信仰を事例として―」『現代宗教研究』55号、2021年3月、147-173頁。

[その他]

- ・(論考)「連載第一回「一寺院離れと寺院観光―現代の寺院空間と観光化「柴又帝釈天と観光化の歴史」」『法華』1139号、法華会、2020年11月、35-40頁。
- ・(論考)「連載第二回「一寺院離れと寺院観光―現代の寺院空間と観光化「柴又帝釈天参道商店街の継承意識―下町情緒を守る人々」」『法華』1140号、法華会、2020年12月、33-38頁。
- ・(論考)「連載第三回「一寺院離れと寺院観光―現代の寺院空間と観光化「信仰と観光の共存―柴又帝釈天参詣者の宗教意識―」」『法華』1141号、法華会、2021年1月、32-38頁。

ガイタニディス・ヤニス (GAITANIDIS, Ioannis)

共同研究員 日本学・宗教社会学・医療人類学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

イヴ・カドー (CADOT, Yves) 共同研究員 日本文化と武道

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

塚田穂高 共同研究員 宗教社会学、日本文化論

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

野口生也 共同研究員 宗教人類学、ペンテコスタリズム研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

ジャン＝ミシェル・ビュテル (BUTEL, Jean-Michel) 共同研究員 日本民俗学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

チャールズ・フレーレ (FREIRE, Carl)

客員研究員 近代の日本史（特に社会史・思想史）

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

牧野元紀 共同研究員 ベトナム キリスト教史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

村上晶 共同研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【論文】

- ・「亡き人を思う供養の祭りへー川倉賽の河原地蔵尊例大祭の変容ー」山中弘編『現代宗教とスピリチュアル・マーケット』弘文堂、2020年8月、107-126頁。

【口頭発表】

- ・「災因論の手前で一律軽の巫俗を中心に日常の不幸を考えるー」日本思想史学会主催第六回「思想史の対話」研究会、於甲南大学、2020年11月8日。

【その他】

- ・（書評）書評と紹介 杉木恒彦・高井啓介編「霊と交流する人びとー媒介者の宗教史ー上巻・下巻」『宗教研究』94（1）、2020年6月、144-154頁。
- ・（発表要旨）「Lived religion研究の課題と可能性」『宗教研究』94（別冊）、2021年3月、268-269頁。

矢崎早枝子 共同研究員 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【論文】

- ・「Scrupulous devotion: the influence of Ibn Hanbal on al-Makki」R. Tabandeh and L. Lewisohn共編者『Sufis and their Opponents in the Persianate World』University of California, Irvine; Jordan Center for Persian Studies, 2020年、59-87頁。

【口頭発表】

- ・（講演）「Kimono culture and 'Mottainai' spirit」Japanese language and culture event, Nihongo Connection（オンライン開催）、2020年6月6日。
- ・（講演）「Mottainai (What a waste!) spirit in Japanese tradition: Kimono, Kintsugi (golden joinery) and Shojin Ryori (Buddhist cuisine)」Japan Exchange and Teaching programme Alumni Association (JETAA) UK（オンライン開催）、2020年9月4日。
- ・（講演）「Kimono culture, blending aestheticism, functionality and sustainability」Professional Practice Sessions, Department of Fashion & Textiles, Glasgow School of Art（オンライン開催）、2020年12月2日。

- ・(講演)「The Japan/Glasgow Connection」City Art Centre Edinburgh “E.A. Hornel: From Camera to Canvas” 企画展示において(オンライン開催)、2021年1月14日。

[その他]

- ・(ラジオ出演)「Beyond Belief」BBC、2020年4月20日。
- ・(表彰)「英国イスラーム研究学会・De Gruyter博士論文賞表彰式」British Association for Islamic Studies (BRAIS)、2020年12月16日。
- ・(監修)「神社に行こう1：神社の中にあるもの(ときわ台天祖神社)」YouTube clip、2021年2月24日。

井関大介 共同研究員 日本宗教史、宗教思想史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の成果公開とデータベース再構築」

[論文]

- ・「井上円了の妖怪学と「宗教学」、久保田浩・鶴岡賀雄・林淳・深澤英隆・細田あや子・渡辺和子=共編『越境する宗教史 上巻』(宗教史学論叢 25)、リトン、2020年、229-261頁。
- ・「『妖怪学講義』における「方便」について」『国際井上円了研究』第9号、2021年、64-84頁。

[口頭発表]

- ・「近世日本における経世論と宗教論について」、第11回南山宗教研究会、於南山宗教文化研究所(オンライン開催)、2020年10月23日。
- ・「妖怪学の目的について」、国際井上円了学会第9回学術大会、於東洋大学(オンライン開催)、2020年12月5日。

一戸渉 共同研究員 日本近世文学・学芸史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の成果公開とデータベース再構築」

[単行本]

- ・『橋本経亮旧蔵 香果遺珍目録』慶應義塾大学三田メディアセンター、2021年3月。

[論文]

- ・「「炎上」する江戸の言説空間——宣長・秋成と藤貞幹の「偽書」」『ユリイカ』52巻15号(通巻767)、2020年12月、91-98頁。
- ・「稲荷社祀官大西親盛の和歌 続々—京都学・歴彩館蔵『歌日記』翻印と解題(2)」『斯道文庫論集』55輯、2021年2月、119-153頁。

[口頭発表]

- ・「摂津呉田吉田家三代の文事と出版」基盤研究(B)「近世中後期上方文壇における人的交流と文芸生成の〈場〉」科研研究会、オンライン開催、2020年8月8日。

[その他]

- ・(辞典項目執筆)「禁裏の文化と和学」、日本思想史事典編集委員会編『日本思想史事典』丸善出版、2020年4月、386-387頁。
- ・(総説)「文庫開設六十年記念フォーラム「書誌学のこれまでとこれから」開催記」『斯道文庫論集』55輯、2021年2月、23-32頁。

今井功一 共同研究員 歴史民俗資料学、富士信仰研究、教派神道研究

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の成果公開とデータベース再構築」

[論文]

- ・「明治期実行教の組織形成における漢学者・国学者—教師養成制度を例に—」『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』第13号、2020年9月、55-67頁。
- ・「ある葬儀——令和元年六月、両神村字小森で」『埼玉民俗』第45号、2021年3月、48-58頁。

【口頭発表】

- ・「柴田礼一管長時代の実行教の教化活動」日本宗教学会第79回学術大会、於駒澤大学（オンライン開催）、2020年9月20日。

荻原 稔 共同研究員 教派神道

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の成果公開とデータベース再構築」

【論文】

- ・「井上正鐵と気吹舎の接近」『國學院大學研究開発推進機構紀要』13号、2021年3月、1-24頁。

【口頭発表】

- ・「井上正鐵の旅日記『煙草の裏葉』」第74回神道宗教学会学術大会、オンライン開催、2020年12月5日。

【その他】

- ・（書評へのリプライ）永井美紀子「荻原稔著『井上正鐵門中・禊教の成立と展開―慎食・調息・信心の教え』」『宗教と社会』第26号、2020年6月、58-59頁。

小平 美香 共同研究員 日本思想史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の成果公開とデータベース再構築」

【口頭発表】

- ・「近代天皇制における皇后と祭祀儀礼の意義」日本思想史学会2020年度大会 シンポジウム「日本思想史学から見る近現代の天皇」、於甲南大学岡本キャンパス、2020年11月7日。

【その他】

- ・（事典）「古代における女性観」『日本思想史事典』丸善出版、2020年4月30日、176-177頁。
- ・（コラム）コラム④「巫女と女性神職」『近代日本宗教史第1巻 維新の衝撃 幕末～明治前期』春秋社、2020年9月20日、175-178頁。
- ・（動画出演）「神社を学ぶための動画「神社に行こう1 神社の中にあるもの」ときわ台 天祖神社（東京）」平藤喜久子所長「日本宗教教育の国際的プラットフォーム構築のための総合的研究」、2020年11月21日。

小田 真裕 共同研究員 日本近世史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の成果公開とデータベース再構築」

【論文】

- ・「民間所在資料を守るのは誰だ？―二〇一九年九月・一〇月の千葉県における台風・豪雨災害後の経験から考える―」『関東近世史研究』87号、2021年2月、24-37頁。
- ・「二〇二〇年の課題と塚本民衆史―『都会と田舎』を読み直す―」『民衆史研究』100号、2021年2月、23-34頁。
- ・「上総国山辺郡清水領における郡中取締役と領主・村一社倉・公金貸付関係史料の分析から―」渡辺尚志編『相給村落からみた近世社会【続】―上総国山辺郡台方村の総合研究―』岩田書院、2021年3月、177-209頁。

【口頭発表】

- ・「史料研究ノート「無免許で陰陽師の真似をした男―川野辺新田・辺田村関係文書の調査報告を兼ねて―」」第33回「江戸と千葉」研究会・房総史料調査会共催例会、オンライン開催、2021年3月17日。

【その他】

- ・（地域と古文書）「市民と元職員の古文書サークル―八潮市「わくわく古文書クラブ」―」『古文書研究』90号、日本古文書学会、2020年12月、116-120頁。

齋藤公太 共同研究員 日本思想史・宗教史

担当研究事業「[「國學院大學 国学研究プラットフォーム」]の成果公開とデータベース再構築」

【論文】

- ・「[「附会」と「考証」のあいだ—垂加神道の『日本書紀』解釈] 山下久夫・斎藤英喜編『日本書紀1300年史を問う』思文閣出版、2020年6月、203-223頁。
- ・「[本居宣長と日本主義—暁烏敏による思想解釈を通して] 石井公成監修、近藤俊太郎・名和達宣編『近代の仏教思想と日本主義』法藏館、2020年9月、381-410頁。
- ・「[国家神道と教派神道] 島蘭進・末木文美士・大谷栄一・西村明編『近代日本宗教史 第2巻 国家と信仰』春秋社、2021年1月、127-155頁。

【口頭発表】

- ・「[植村正久とナショナリズム—「神道」と「信教自由」をめぐる—] 第1回「キリスト教とナショナリズム」公開研究会「明治期の「信教自由」とキリスト教・神道の交錯」、オンライン開催、2020年8月22日。
- ・「[小崎弘道における政治と宗教] 日本宗教学会第79回学術大会、於駒澤大学（オンライン開催）、2020年9月20日。
- ・「[東アジアにおける『春秋』解釈の展開と日本の正統論] 2020年中国文化大学東アジア学会議、オンライン開催、2020年11月10日。
- ・「[池田義象の皇位継承論] 神道宗教学会第74回学術大会、於國學院大學（オンライン開催）、2020年12月5日。

芹口真結子 共同研究員 日本近世史

担当研究事業「[「國學院大學 国学研究プラットフォーム」]の成果公開とデータベース再構築」

【論文】

- ・Sonehara Satoshi, Umeda Chihiro, Christopher Mayo, Seriguchi Mayuko, Hozawa Naohide. Religious Transformations in Early Modern Japan: Relationships Between the State, *Religious Organizations and Communities International Journal of Buddhist Thought and Culture*. 30 (1), 2020.06., pp. 39-75.

【口頭発表】

- ・「[俗人と宗教者をめぐる教化活動の統制とその実態] 歴史学研究会日本近世史部会2021年度大会支援報告会、オンライン開催、2021年3月28日。
- ・“Temple Towns in the Capital: Higashi Honganji's Temple Town in Early Modern Kyoto” A paper presentation in the panel session “The Care and Management of Religious Organizations in Early Modern Japan” (Sonehara Satoshi, Hōzawa Naohide, Umeda Chihiro, Seriguchi Mayuko, Christopher Mayo), AAS 2021 Virtual Annual Conference 2021.3.27 Virtual Association for Asian Studies.

原田雄斗 共同研究員 日本近代史、日本宗教史

担当研究事業「[「國學院大學 国学研究プラットフォーム」]の成果公開とデータベース再構築」

三ツ松誠 共同研究員 日本思想史

担当研究事業「[「國學院大學 国学研究プラットフォーム」]の成果公開とデータベース再構築」

【単行本】

- ・『幕末地方歌壇の研究—佐賀藩の場合—』共同研究（特定研究（若手）「幕末地方歌壇の研究—佐賀藩の場合—」研究代表者三ツ松誠編）大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館、2021年3月。

【論文】

- ・「本居内遠の文事」『日本文学』(69巻)12号、2020年12月、11-20頁。
- ・「近代神道の形成」島蘭進・末木文美士・大谷栄一・西村明編『近代日本宗教史 第一巻 維新の衝撃——幕末～明治前期』春秋社、2020年9月、141-174頁。
- ・「The Successors of Hirata Theology」『Religious Studies in Japan』5号、2020年4月、53-80頁。

[口頭発表]

- ・(講演)「重松菅二の和歌修行——幕末維新时期地域文化史のひとこま——」佐賀市立図書館共催佐賀大学公開講座「私が教えたい佐賀の歴史と文化 100分集中講義」、於 佐賀市立図書館、2021年1月30日。
- ・「肥前の国学者における「道」と「雅び」」日本宗教学会第79回学術大会、オンライン開催、2020年9月20日。
- ・(講演)「小城藩の文化と桜岡公園」小城山挽祇園祭シンポジウム、於 ゆめぶらっと小城、2020年7月18日。

[その他]

- ・(資料紹介)「架蔵「嗟天議」——明治初年の丸山作楽の政治的位置をめぐって」『長崎歴史文化博物館研究紀要』15号、2021年3月、59-70頁。
- ・(資料紹介)(共著)「小城鍋島文庫蔵『和学知辺草』翻刻稿(中)『佐賀大学地域学歴史文化研究センター』15号、2020年10月、93-111頁。
- ・(辞典記事)「国学者の自然観」「禁裏と公儀」「平田篤胤とその門流」日本思想史辞典編集委員会編『日本思想史辞典』丸善出版、2020年4月、122-125、468-469、486-487頁。